伊藤光学工業株式会社

全世界的に眼鏡レンズ品質の二極化が進む中、**MADE IN JAPANの高品質レンズを当社の武器**として、市場拡大を図る。また、雇用を確保し、地域に根差した中小企業として地元に愛される会社を目指していきます。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- 市場（社会・取引先・個人）の要求するものをきめ細かく開発・生産・販売していくことで、社会からの支持を得る。
- 高齢化に寄り添った形で、快適な視空間を提供し続ける企業として、医療や他産業分野とも広く連携し研究開発を続けていく。MADE IN JAPANの名前に恥じない、**高品質な製品を愛知県蒲郡から世界に提供**し、光に関する様々な課題を解決していく。
- 価格競争に参入するのではなく、設計や表面加工技術を活かした**ハイエンドな商品を国内外に販売**し、提供する“小粒でピリリ”としたメーカーを目指す。
- 環境負荷物質の代替については専門メーカーと協力しながら技術開発部門にて改良を目指す。

会社全体の売上成長目標（～31年度）

- 売上高成長率103%
- 売上高増加額65.9億円

会社全体の賃上げ目標

- 1.89%（直近事業年度～基準年度）
- 5.50%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

- 海外生産品の大量流入により価格破壊が起こり、市場が安価な製品を求める層と高級なものを求める層に二極化している。
- 今後人口減少が叫ばれる一方で、眼鏡使用者の低年齢化や降り注ぐ紫外線が目の健康に与える影響が検証され、**眼鏡装用に対する社会的関心が高まってきている**。
- 海外市場では、中国資本のメーカーが市場を席巻しつつあり、安価な製品が出回っている一方で、仕入れ先の分散や高品質を求める動きも加速している。
- 欧米でREACH規制等の**環境問題への規制強化**が求められている。

内発的動機

- 現在工場が、市内の３箇所に分散しており、工程毎に搬送が必要となり**非効率**であると同時に**設備の老朽化**も進んでいる。
- 現在の工場を、生産を継続しながら最新設備に入れ替えていく、あるいは工程を抜本的に見直していくことは厳しい状況である。
- 現在の生産設備・効率では、高まる紫外線対策ニーズやファッションに対するニーズに伴う**増産、海外からの高機能レンズに対する要求に応えきれない**可能性が高い。
- 海外においては**環境面にも配慮したものづくり**が強く求められており、現在の生産設備より前進させる必要がある。
- 世の中の環境に配慮し安全で**環境負荷の少ない工程**を目指していく。

伊藤光学工業株式会社

生産拠点の集約と工程の抜本的な効率化、及び生産余力の創出を図り、**会社全体の生産性を向上**する。
また、付加価値額の拡大により、従業員に対して**持続的な賃上げを実現し地元に愛される会社**を目指す。

補助事業の背景・目的

- 市内３箇所に分散した工場を集約し、工程の見直しを図り、搬送コスト削減・生産能力増強。
- 老朽化した設備を刷新し、環境面、効率、生産性向上を目的とする。

事業費（補助額） 47億円（15億円）

設備投資の内容

- (建物) 分散している工場を1つの工場に集約することで、作業の効率化及び動線のムダを省き**生産能力増強**。
- (ハード) 老朽化した設備に変わり、最新設備を導入することで省エネ、省人化による**コスト削減、加工時間短縮、大量生産**が可能になる。
- (蒸着) 生産設備の自動化による抜本的な効率化を図り、生産効率向上、**作業負担軽減、品質の安定化**が期待できる。また、移動・搬送などのコストを削減し、各工程の処理時間の短縮。
- (環境) 新工場建設による快適な労働環境を提供をすることで働きやすい環境を作り、また、**作業環境の改善**によりコスト削減が実現し、従業員の賃上げにつながる。



目標値

項目	2028年度（基準年度）	2031年度（基準年度＋３年後）
労働生産性（単位：万円/人）	630万円	1,208万円（年平均上昇率＋24.2%）
従業員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	513万円	602万円（年平均上昇率＋5.5%）
役員１人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	-	-（年平均上昇率＋5.5%）
補助事業に係る従業員数（単位：人）	349人	360人